



将来の進路に向かって

進路說明會

説明会：
11月2日
懇談：
12(月)
～16金)

卒業後の進路選択は、高校選びが目的ではなく、将来どのような人生を送るのか、そのためには何をすればよいのか、そのためには何で、何をしなければならないのかを考えることです。皆さんは、どのようなおとなにならっていきたいのか、どんな職業についていきたいのか、たしかに、自分の職業の中から、選ぶ作業をこれからしていかなければなりません。そのためには何をしなければならないのか。何をするに適しているのか。その目標に向かって、3年生は一歩踏み出します。高校や専門学校に進学する者、就職をする者など、これから進む道が違つてもます。3年生は、11月2日の金曜放課後に保護者の方々を対象とした進路説明会を行いました。私立高校の特色や公立高校の特色などを、清明高校、今宿高校、府教育センター付属高校から担当の先生方をお招きし、説明していただきました。また、進路王事から、公立高校の本年度の変更点等を中心に説明をさせていただきました。

1年生 職業講話

11月
22日
(水)

日曜日や冬休みなどをを利用して、進学希望の学校には実際にに行って、自分の田と足で確認しておいてください。願書を出す時に初めて学校に行つたところよりないとのように、注意しておいてください。自分を見つめ、自分の将来の夢を鑑み、自分の適性や学力を理解し、家族の方と良く話し合をして、後悔のない進路選択をしてください。



来、夢を持った生きかしいのある仕事を見つけるためのお話しをしていただきました。その中で、学校生活で学ぶ基本を大切にということ、人として守らなければ



11月22日5限、1年生は職業講話を聞きました。ハロー・ワークから担当の先生に来ていていただき、用意されたプリントに基づいて、話が進められていきました。「働く」と云ふことはどう云ふことなのか?「仕事をする」と云ふことは何を意味するか?「職を実現するためには、今必要なこと」は何だらうか等将

H30
11 30



発行者
中西利彦



とうじやこ
ました。



學校協議會

10月
30日
(火)



状況調査の結果、分析について
②学校診断アンケートについて
③運営に関する中間反省について

④2学期から始まつた親子給食にあたつての給食アンケートの結果と分析についての4点について、校長から説明をいたしました。①②③については、10月号の記事で内容を説明いたしました。また、給食についてのアンケート結果は、「第2回 学校協議会 10・30」を参考ください。協議会の中で、その他の話として、北館校舎建て替えに伴つ仮設校舎とその工事について、子どもたちの安全と教育環境をできる限り守つてやつてほしことくお話を出でていました。協議会の委員の皆様が、ありが

れはないルールを「ルール」と
それは、口JNから聞いていた「あ
いさつをしよう」「忘れ物をしな
い」といった内容で、「これは学校だ
けでなく、社会一般に大切なことだ
てくれたと思います。



球技大会・キックベースボール

「日本人読み書き『能力不足』82%」

読書週間（10月27日～11月9日）を前に、毎日新聞は25日、7～9月に実施した「第72回読書世論調査」の結果をまとめた。日本人の読み書きする能力について、不足していると感じることが「ある」と答えた人が、82%に達し、感じることは「ない」の16%を大きく上回った。

不足を感じることが「ある」と答えた人に原因を聞くと、「読み書きする時に、スマートフォンや携帯電話、パソコンを使っているから」が47%と最も多く、「文章をあまり書かないから」20%、「本を読まないから」19%が続いた。ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の普及で、読み書きの内容が短文に偏りがちになっていることが影響しているようだ。

言語学者の金田一秀穂・杏林大教授は「今は『短く』『簡潔』という単純化された文章こそ良しとする風潮がある。しかし、それでは物事を深く考えることはできない。結果をみると多くの人がそのことに気がついているのではないか」と指摘する。調査は、全国の16歳以上の男女3,600人を対象に郵送方式で実施。2,350人から有効回答を得た。（右グラフ参照）



1,2年生が球技大会を行いました。2年生が1日の5・6限を使って、また、1年生は8日の5・6限を使って球技大会を行いました。両日ともに、晴天で、穏やかな気温でした。男女別、クラス対抗戦で、思いっきり応援をして、その声が校舎中に鳴り響いていました。一人では、楽しむことができない行事が学校にはあります。これからも互いに力を合わせて、よりよいクラスを作つていってください。

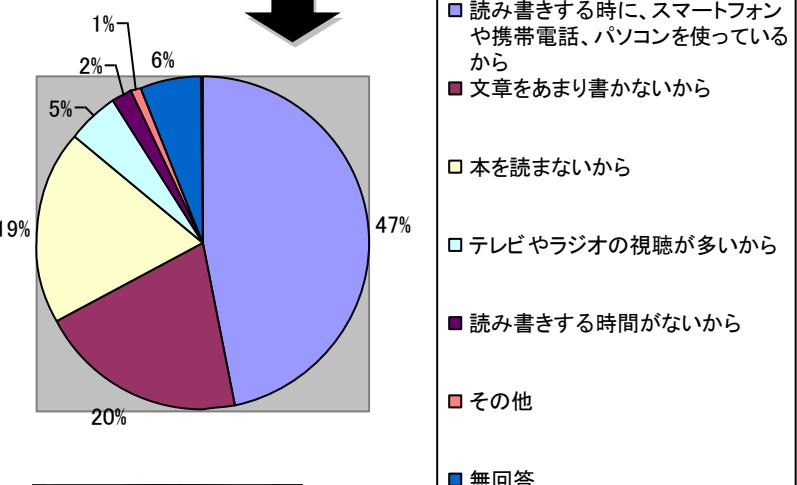


無回答 2%

日本人の読み書き能力の不足を感じることがあるか

ある 82%

ない 16%



編集後記

大阪に万博が開催されるというニュースが飛び込んできました。2025年だそうです。2020年に東京オリンピックが開催され、5年後に万博が開催されます。オリンピックも万博も2回目です。1回目の頃（五輪は1964年、万博は1970年）とは、国内外で大きな違いがあります。しかし、それぞれのイベントを経て、この国が大きく変貌したことは確かです。これからイベントもそのことを期待して開催されます。生徒の皆さんには、2回目の大阪万博の頃は20歳を過ぎた責任ある成人になっていることでしょう。さて、どうかかわっているのでしょうか。どう影響を受けるのでしょうか。AIやPCやSNSやコンピューターが活躍すると思われますが、それを作り、コントロールするのは、最終的には人間だと思います。どんな世の中になんでも、人とのつながりがおろそかにならないように自分磨きに努めてください。



食文化の一環として、栄養教諭の永井先生が総合の時間を活用して、各学年で特別授業をしてくださいました。食文化を通じた国際理解教育がテーマです。たとえば、米を例に挙げ、私たちの日頃食べているご飯（ジャポニカ米）と外国でよく食べられているインディカ米の違いがある。粘りのあるジャポニカ米だから、日本におむすびが生まれたり、箸文化が生まれました。



食文化から国際理解を考える